

地図を利用した「源平合戦」の学習

香川大学教育学部附属高松中学校 川上 敬吾



地図を利用して日本の歴史についての認識を深める授業を考えてみた。利用した地図は、『中学校社会科地図(初訂版)』p.79～82である。

歴史を理解する上で、多面的・多角的に考察し理解することは極めて重要である。現行学習指導要領の改訂の趣旨の中にも「…各分野の独自性を尊重しながらも、各分野の有機的な関連を図るように工夫することが大切である。」と述べられている。ここで報告する授業は、中学校社会科の各分野の内容・資料を使用することを念頭において、実施した。

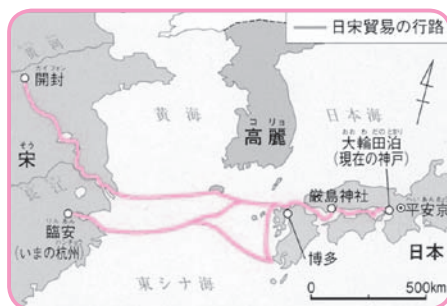
該当する教科書の単元は〈戦いの専門家「武士」の登場〉である。この単元では、武士の支配が次第に広まり、交易などを通して東アジア世界と密接に関わるようになっていく様子を理解させる。

この授業の中で、地図を使う目的を次の2点とした。

- ①源平合戦の推移を、時間と場所の両面から理解させる。
- ②平氏が貿易を中心として瀬戸内海の海上交通を握っており、西日本に勢力を持っていたことを理解させる。

展開は次の通り実施した(ただし、地図を用いた場面のみ)。

- ①地図から合戦の場所が、時間経過に沿ってどのように移り変わったかを読み取らせる。合わせて、合戦の様子を簡単に説明する(現地写真資料も使用)。
- ②読み取った場所を白地図に記入し、直線でつなげる。
- ③教科書p.55の歴史地図「日宋貿易の行路」と比較させ、合戦の場所が推移した理由を考えさせる(平氏の勢力範囲図の資料も併用する)。



帝国書院『中学生の歴史(初訂版)』p.55

生徒は、①の作業で、興味・関心を強く示し、同時に合戦の場所がいずれも海浜部であることを実感した。②の作業では、できあがった図が、教科書p.55の歴史地図「日宋貿易の行路」とほぼ同様であることに着目でき、③の思考作業を効果的に行うことにつながったようである。